

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学器楽 音楽のおくりもの</h2>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の練習方法や学びの手順が工夫され、基礎的な奏法から、難易度が段階的に上がるようになっており、最後に学習のまとめの曲が配置されている。</li> <li>○各楽器の構造や各部の名称が写真やイラストで示されている。楽器の構え方については正面や斜めからの写真が掲載され、また口元や手元も大きめの写真で確認しやすくなっており、技能の習得につながりやすい。</li> <li>○リコーダーでは、楽譜のすぐそばに運指が掲載され、確認しやすい。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ページ冒頭にめあてが書かれており、達成するためにはどのように工夫すればよいのか思考しながら活動ができる。</li> <li>○「表現の仕方を調べてみよう」では、鑑賞教材で演奏される楽器について、音の出る仕組みや構え方、旋律の吹き方や特徴に着目し、「話し合おう」でそれぞれの楽器の共通点や相違点を話し合い、深められるようになっている。</li> <li>○「音のスケッチ」では、表現力を育成できるような音楽的要素を絡めた指示があり、どこにポイントを置いて創作活動に取り組めば良いかがわかりやすくなっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「+深めてみよう」では、新たな運指や奏法、表現の工夫を学ぶことで、表現できる幅が広がり、学びに向かう力が育成されるよう配慮されている。</li> <li>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、互いに調整を図りながら表現を工夫できるよう、二重奏以上の作品が多く掲載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの單元には、端にソプラノリコーダーの運指も載っており、アルトリコーダーを使わない学校も確認がしやすい。</li> <li>○リコーダーの楽曲は、ソプラノとアルトのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から進められるように工夫されている。</li> <li>○箏の教材では、創作活動「音のスケッチ」と関連づけて学習できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統楽器を現代曲に取り入れた例や、アニメの楽曲等を取り入れ、生徒が音楽文化に親しみやすい工夫がされている。</li> <li>○ストリートピアノを取り上げ、「音楽を通じて人と人とのつながりを生み出す」取り組みを紹介し、社会の中の音に関心をもてるように工夫されている。</li> </ul>	

資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「各楽器の名手からのメッセージ」を掲載し、生徒がより興味・関心を持ち、音楽的な見方・考え方ができるよう工夫されている。</li> <li>○巻末には、リコーダーの運指表、ギター&amp;キーボードのコード表が掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</li> <li>○「発展」のページには、吹く楽器、弾く楽器が楽器の特徴と共に紹介され、その楽器の背景にある文化や伝統について興味・関心が向くようにワークスペースが用意されている。</li> <li>○「いろいろな用語、記号」で、速度、強弱、反復、階名などが解説されており、最終ページに掲載されているのですぐに確認しやすい。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの奏法では、音形を図形で示し音のイメージをしやすくしている。</li> <li>○UD フォント、CUD を使用している。</li> <li>○和楽器の教材では、五線譜と、各楽器固有の譜面が掲載されている。</li> <li>○巻末の「いろいろな用語、記号」では、掲載されている曲に使用される記号や音名等を確認できるよう工夫されている。</li> <li>○楽器毎に見出しの色分けがされており、ページが開きやすくなっている。</li> <li>○ギターでは、楽譜に弦の番号と左手の指番号を合わせて掲載しており、取り組みやすいよう工夫されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の技能習得において、基本の奏法練習や練習曲などを経て、アンサンブルなど技能に応じて演奏できるよう配列に工夫がされている。歌唱、創作、鑑賞との関連にも配慮し、実態を踏まえて取り扱うことができる。</li> <li>○各楽器の掲載順を種類ごとに配置し、それぞれの楽器の表現方法についての特徴を踏まえながら、共通点や相違点を考えられるように工夫されている。</li> </ul>

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学生の器楽</h1>	27 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 芸</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○リコーダーは、アーティキュレーションを重視した学習構成になっている。運指も楽譜のすぐそばに掲載されており、確認しやすくなっている。          ○箏では「演奏のポイント」が示されていて、何を意識して演奏したらよいか分かりやすい。          ○各楽器の各部の名称が写真等で示され、二方向からの構え方の写真掲載や、手元写真で、視覚的に理解しやすく、技能習得のための工夫がされている。       </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○「My Melody」では構成や音階を意識して箏の旋律を作ることができる。          ○「学びのコンパス」では、思考力や表現力を深めるために、音楽的要素をポイントに挙げ、イラスト等による考え方のヒントを掲載している。       </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○和楽器には奏者の言葉が載っていて、その楽器の魅力を感じながら演奏することができる。          ○「アンサンブルセミナー」では、各パートの役割を個々が担うことで、自他の敬愛や協力を重んずる態度を養う配慮がされている。演奏上の課題や問いが明記され、協働学習で更に高い音楽表現ができるよう工夫されている。          ○それぞれの曲には、色の付いた帯でめあてが載っており、ゴールを意識しながら取り組むことができる。       </p> <p> <b>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</b>          ○リコーダーの単元ではQ&amp;Aで基本的な演奏のポイントを学ぶことができる。          ○各教材に、学習課題や、学習内容に即した音楽を形作っている要素が示されている。創作活動「My Melody」と関連づけて学習できるよう工夫されている。          ○リコーダーの楽曲は、ソプラノとアルトのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から進められるように工夫されている。運指も各ページに掲載され、すぐに確認できる工夫がされている。       </p> <p> <b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○各楽器の名手や著名人からのメッセージや、中学生の音楽活動の様子を掲載し、生徒が主体的に生活の中の音楽について考えられるよう工夫されている。          ○各楽器の参考曲には、各地の民謡や伝統芸能と絡めたものが挙げられている。また、各楽器を使った各地に伝わる郷土の祭りや芸能が写真で紹介されたり、様々な演奏スタイルも掲載されたりしている。       </p>	

資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習をサポートするための「リコーダーの運指表」「ギター、キーボードコード表」「楽器の図鑑」が掲載されている。</li> <li>○バンドのスコアが掲載され、生徒の興味・関心に即した内容が取り入れられている。</li> <li>○「音楽の約束」では、音符や休符、速度、奏法に関するもの、強弱、反復など、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽器ごとにページが色分けされ、写真も多くわかりやすい。</li> <li>○和楽器の教材では、五線譜と、各楽器固有の譜面が掲載されている。</li> <li>○巻末の「音楽の約束」では、掲載されている曲に使用される記号や音名等を確認できるよう工夫されている。</li> <li>○UD フォント使用や色覚特性への配慮がされている。</li> <li>○和楽器では、唱歌も一緒に学べるようになっている。</li> <li>○リコーダーのタンギングの発音では、音域や求める音質に応じたさまざまな発音を系統を用いて掲載している。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容のページでは、学習指導要領に示された、3つの資質能力に対応する学習内容や教材を見開きで示し、学習を見通せる工夫がなされている。</li> <li>○各楽器の基礎から、多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用曲まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱、創作、鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、実態を踏まえて取り扱うことができる。</li> </ul>